

アメリカ留学Q & A

最近よくある質問(1)

Q 質問

大学3年生で、1年間のアメリカ留学に興味がありますが、つい最近まで関心がなかったもので、大学時代の成績が悪い（GPAが低い）、留学のための経済的余裕もない、英語力もさほどではなく TOEFL もまだ受けたことがありません。どうすればいいでしょうか？

A 回答

1) アメリカ留学に必要な4条件

留学を真剣に検討しているのであれば、まずご自分の 英語力（「よくある質問-英語力」も参照）を、TOEFLなどの各種英語テストを受けて客観的に把握してみることを第一歩としてお勧めします。

アメリカ留学には、英語力に加えて、（ある程度以上の）学力、経済力、コンピュータースキルが必要といわれています。その入学基準は、大学毎に異なり、「誰でも受入れる＝オープンアドミッション」のコミュニティカレッジ（公立2年制大学）から、競争が熾烈な著名なアイビーリーグ校まで多岐に渡ります。しかし、その共通点は、入学してからの勉強は、どのレベルでも例外なく非常にハードで、卒業までにある程度の成績を積み上げていかないと途中退学を余儀なくされることもあるという点です。

実力主義といわれるアメリカの大学では、留学生であっても容赦なくアメリカ人と同様なハードな勉強を課せられますので、それについていけるだけの学力、英語力があるということを、既に入学時の要件として証明する必要があります。

留学というと、「英語力」がまず必要と思いがちですが、英語力は（アメリカ人と互して勉強するには）あって当たり前のもので、同じくらい重要なのは、「学力」の部分といわれています。将来、大学でやっていけるだけの学力があるかどうかは、過去の業績（成績）から判断されるため、留学を考える場合、普段から実力を積み上げて良い成績を残しておくことが大変重要です（もし、将来に大学院留学も視野に入れている場合は、今からでも良い成績を残すように、普段から努力することが大切だとご認識ください）。

2) 大学間の交換留学

相談者のように、大学在籍中に1年間休学をして留学する場合に、一番本人にとってメリットが大きいのが、大学間の交換留学制度を利用して留学する方法です。(大学によりますが、)これには、単位互換がスムーズに行く、学費が免除・減免になる、大学選抜による優秀さをアピールできる、など各種メリットがあります。しかし、「学内選抜のタイミングを逃し応募できなかった」、「成績がふるわないので現実的でない」など、様々な個人的な事情もあるでしょう。

3) 個人留学

学内の交換留学制度を利用しない場合は、個人留学(「[1年間の留学](#)」参照)という選択肢になるでしょう。アメリカの大学は、多様なニーズに応えるため、色々な選択肢があります。個人の留学目的や本人の英語能力度にもよりますが、①大学レベルで授業を受けたい場合、non-degree student(学位を取得しない学生)として、A) コミュニティカレッジ、B) 大学の条件付き入学、C) 大学の生涯教育(Extension)センターで、1年間(または短期間)勉強するという可能性・選択肢があるでしょう。しかし、②留学の主目的が英語の習得、または海外での生活体験を重視したい場合、本人の英語力が大学入学レベルに届いていない段階では、D) 英語研修への留学が一般的でしょう。

A) コミュニティカレッジ

もし、過去の成績が思わしくないで、成績を要求されないで、かつなるべく早く大学に留学したい場合、一番近道に思われるのが、[コミュニティカレッジ](#)に留学するという方法です。アメリカのコミュニティカレッジは、地域のコミュニティの税収で、多様なニーズにあった教育内容を(一般的に4年制大学よりも)低いコストで提供しています(「[1学年の平均留学経費](#)」参照)。日本には馴染みのない形態ですが、多くのアメリカ人学生は、まずコミュニティカレッジで一般教養を勉強し、その成績を以て4年制大学に編入するという方法を利用しています。従って、2年制大 < 4年制大という図式ではなく、2年制大の一般教養(編入)コース = 4年制大の1~2年の一般教養 という図式が成り立っています。つまり、2年制大の一般教養のコースは、4年制大の一般教養と同じ教育内容と考えることが可能です。先入観を持たずにコミュニティカレッジを現実的な留学方法として見てみることも一つかと思えます。ただし、入学要件で過去の成績は要求されませんが、最低限の英語力は要求されますので注意が必要です。コミュニティカレッジに入学できても、最低限の英語力がなければ、授業についていけず退学になる危険性があるからです。コミュニティカレッジへの留学を考える際の留意点には、1) 一般的に寮の設備がないところが多いので、自分で住む場所を手配する必要があり、よく留学でイメージされるようなキャンパスライフには必ずしも当てはまらない、2) 日本の大学によってはコミュニティカレッジからの単位互換がされない、という2点に留意しましょう。しかしながら、学力不問、英語力も低い基準、比較的低いコストのコミュニティカレッジは、スタート地点として、アメリカ人学生だけでなく多くの留学生にとっても魅力的な選択肢になりうることを、知っておいていただきたいと思えます。

B) 大学の条件付き入学

アメリカの大学の中には、英語能力以外の条件が基準に達しており、英語力のみが不足している留学生に、「英語研修を課す」という英語の条件付きで入学を許可してくれる大学もあります（[「条件付き入学」](#)参照）。条件付き入学を持つ大学のリストは、College Board発行の『International Student Handbook 2011』という書籍で調べることができます（書籍は、日米教育委員会資料室にて閲覧可能）。この相談者の方は、GPAが低いとのことですが、この入学方法に興味があるのであれば、条件付き入学を持つ中から特定の大学を絞り、その大学の入学基準のGPAを調べたり、直接大学側に問い合わせしてみるとよいでしょう。

C) 大学の生涯教育（Extension：エクステンション）センター

アメリカの大学の中には（主に西海岸の総合大学）、大規模な生涯教育（Extension：エクステンション）センターを持ち、正規学位プログラムとは別に、短期のクラス履修を可能にしているところがあります（ある程度の単位をまとめて履修すると、Certificate：修了証が発行されるコースもあります）。そのような生涯教育（エクステンション）センターは、学位プログラムではないため、一般的に入学基準はゆるやかで、留学生は英語能力のみというところもあります。しかし、高い英語能力を要求されることが多いことや、自分の希望する期間とあわない、希望するコースがない、留学生は対象外、などの場合もありますので、自分の希望や予算を満たしているカリキュラム・コースがあるか、入学要件・締め切りはどうか、などしっかり調べましょう（[「1年間の留学」](#)参照）。

D) 英語研修

個人留学で、②留学の主目的が英語の習得、または海外での生活体験を重視したい場合、本人の英語力が大学入学レベルに達していない段階では、D) 英語研修機関（語学学校）への留学が一般的でしょう。自分で興味のある大学の英語研修プログラムを探してみたり、現在所属している大学で、アメリカへの短期の語学研修を開催しているのであれば、それを考慮してみるというのも方法です（[「よくある質問—語学留学」](#)参照）。

4) 奨学金または財政援助

留学に必要な4条件の中で、学力、英語力の次に重要なものが経済力です。[1年間の留学経費](#)（学費含む）は、大学により1万ドル～7万ドルとばらつきがありますが、平均して日本より高水準です（[「1学年の平均留学経費」](#)参照）。アメリカ留学の奨学金には、大別して①日本国内の団体が支給するもの（[「アメリカ留学奨学金制度一覧」](#)参照）、②アメリカの大学が独自に支給するもの、に分かれますが、いずれも多くの場合、1年前の締め切りで、かつ「学業優秀な学生」に出ることが多いので、早めの準備、普段から学業成績を良くしておくことが必要です（※アメリカの大学からの奨学金は、各大学のウェブサイトから調べる必要があります。コミュニティカレッジでは、既に学費が安いので奨学金がないことがほとんどです。[「よくある質問—奨学金について」](#)参照）。

このように、奨学金自体をもらえる可能性が一般的にあまり高くはないので、自分

の予算に見合った大学選択、および現実的な資金計画をたてることが重要です。そのために、前述したように、日本の大学に在学している方であれば、大学内の交換留学制度を使えば、学費が免除・減免となるので奨学金の代わりとなります。また、日本の大学の中でも、留学を推進するために、個人留学でも財政支援を行っているところもありますので、良く調べてみてください。

5) 知名度のみに偏らない大学選択を

アメリカには 3000 校以上の大学があり、日本では知られていなくても、現地で評判の良い大学は全米に渡って多数あります。また、[リベラルアーツと呼ばれる小規模私立大学](#)は、学費は高めですが、治安の良さと面倒見のよさ、学部教育に熱心なことで知られています。日本で知られている有名大学だけでなく、アメリカには、前述したコミュニティカレッジなど、様々なタイプの大学がありますので、[ランキング](#)だけに頼らず、自分のニーズに合う大学なのか、その大学でどのような経験ができそうか、など広い視点から大学選択を考えてみてください。各種ランキングの信憑性を自分の目で検証してみることも大事です（[「ランキング」](#)参照）。

6) 終わりに

留学を考え始める時期は、人により様々です。しかし、留学計画に必要な事柄、要する時間は平等です。1 年間という留学期間を決めたとしても、それをどのように生かすかは、自分の裁量次第です。考えている間に、時間は瞬く間に過ぎ去ってしまいます。様々な選択肢を理解してから、今の自分に何が可能かを冷静に判断して、迅速に動きましょう（[「1年間の留学」](#)、[「留学準備スケジュール」](#)参照）。頑張ってください。

フルブライト・ジャパン（日米教育委員会）留学情報サービス

シニア留学情報アドバイザー 笹田 千鶴

Chizuru Sasada